

第16章 1.第一次大戦とロシア革命 c.戦局の変化と大戦の終局

③アメリカ合衆国、[1 **ルシタニア**]号事件(1915)をきっかけに国内でのドイツへの反発の高まる



[2 **1917**]年 ドイツの無制限潜水艦作戦実施をきっかけに参戦→連合軍優勢に
大量の兵力、兵器の供給、経済援助＝アメリカの[3 **債権**]国化すすむ

④戦後世界の構想

1917アメリカ大統領[4 **ウィルソン**]が[5 **14カ条平和原則**]発表

秘密外交の廃止・海洋の自由・軍備縮小・[6 **民族自決**]・[7 **国際平和機関**]の設立など

⑤1917 [8 **ロシア革命**]の発生＝社会主義政権の成立、平和に関する布告発表→無視される



1918,3 ドイツと[9 **ブレスト＝リフスク**]条約を締結、戦線離脱＝[10 **東部**]戦線消滅

⑥1918 ドイツ西部戦線で大攻勢を敢行→失敗し退却へ

⑦1918 9/27ブルガリア、10/30トルコ、11/2オーストリアの降伏

10/28 [11 **キール**]軍港での水兵の反乱をきっかけに[12 **ドイツ革命**]発生

11/9 ウィルヘルム2世亡命、[13 **臨時**]政府成立→11/11 休戦条約締結(第一次大戦終結)

戦局が大きく変わったのは[14 **1917**]年のことである。協商国の一つ[15 **ロシア**]で革命が発生、翌年戦線を離脱、他方、中立の立場をとっていた[16 **アメリカ**]は1917年ドイツが[17 **無制限潜水艦**]作戦を開始すると[18 **協商国**]側で参戦した。

ドイツは1918年西部戦線での総攻撃に失敗、休戦の方法を探るようになっていった。こうしたなか、ドイツの[19 **キール**]軍港で勝利のあてのない出撃を命じられた水兵たちが起こした反乱は[20 **ドイツ革命**]へと発展、ドイツ皇帝が退位し協商国との間で休戦条約を結んだ。

ロシア革命…1917年に発生、[21 **ロシア帝国**]が滅亡した、[22 **三月革命**]と、[23 **レーニン**]率いるボリシェヴィキ(のちの、[24 **共産党**])の指導の下に、[25 **社会主義**]政権を打ち立てた[26 **十一月革命**]からなる。社会主義(ソヴィエト)政権は、[27 **革命干渉戦争**]で米英仏日など列強の介入を破り、1922年[28 **ソ連**](ソヴィエト社会主義共和国連邦)を成立させる。

2.ヴェルサイユ体制 a. ヴェルサイユ体制

アメリカ大統領[29 **ウィルソン**]は第一次世界大戦中に[30 **14カ条平和原則**]で戦後の国際社会のあるべき姿を示した。1919年第一次大戦の戦争の戦後処理をめぐって開催された [31 **パリ**]講和会議も表

面上はこれを原則としていたが、実際には英・仏などの[32 **対独復讐**]の感情と、社会主義国[33 **ソ連**]への警戒感が大きな位置を占めていた。会議の結果結ばれた[34 **ヴェルサイユ**]条約など5つの条約によって形成された世界秩序を[35 **ヴェルサイユ体制**]とよぶ。

この結果、ドイツはすべての植民地と多くの領土を失い、膨大な[36 **賠償金**]を課せられ極度な経済困難に陥るだけでなく、この条約への強い憤りを育てた。こうした世界のあり方がヒトラー出現を準備したといえる。

14カ条の平和原則…アメリカ大統領[37 **ウィルソン**]が第一次世界大戦中に提案し、戦後の国際社会のあるべき姿を示した原則。そこでは秘密外交の禁止や[38 **軍備縮小**]・[39 **民族自決**]・[40 **国際平和機構の設立**]などの理念が盛り込まれていた。

パリ講和会議…[41 **第1次大戦**]の戦後処理をめぐって開催された会議。[42 **ドイツ**]や[43 **ソ連**]などの参加は認められなかった。ウィルソンの[44 **14カ条**]平和原則や[45 **英仏**]のドイツへの復讐意識がおおきな要因となった。この会議の結論にもとづいて[46 **ヴェルサイユ**]条約などが結ばれた。

b. 国際連盟と国際協調

十四カ条の平和原則で実現したものが[47 **国際連盟**]の設立である。しかしアメリカの不参加とともに内容的にも不十分なものであり、その力を十分生かすことができなかった。

アメリカは1921～22年[48 **ワシントン**]会議を開催し、話し合いによる平和維持をめざした。1925年には[49 **ドイツ**]も[50 **ロカルノ**]条約を結び国際社会に復帰、1928年には[51 **パリ不戦**]条約が締結されるなど、[52 **国際協調**]が進行しているかのようにみえた。

他方ではドイツの[53 **ヒトラー**]らによる[54 **ファシズム**]運動が広がりを見せ、この動きは[55 **1929**]年の[56 **世界恐慌**]をきっかけに本格化、世界は再び戦争への道を歩み出すことになる。

国際連盟…[57 **第1次大戦**]後、アメリカ大統領[58 **ウィルソン**]の提唱によって結成された[59 **国際平和の維持**]をめざす国際機関。本部は[60 **ジュネーブ**]におかれた。しかし[61 **アメリカ**]が議会の反対で参加できず、敗戦国である[62 **ドイツ**]、社会主義国[63 **ソ連**]も参加を認められないというように不十分なものであった。

ワシントン会議…[64 **アメリカ**]が主宰した国際会議。[65 **海軍の軍縮**]、[66 **中国**]や[67 **太平洋地域**]の安全保障など[68 **国際協調**]による平和維持をめざした。

ロカルノ条約…1925年[69 **ヨーロッパの集団安全保障**]をめざして結ばれた条約。これにより[70 **ドイツ**]の国際社会への復帰が実現した。

パリ不戦条約…1928年、世界の15カ国のうち63カ国によって調印された条約。1928年には[71 **国際紛争解決に戦争放棄**]という原則を定めた。[72 **日本国憲法九条**]はこの条約が基礎になったといわれる。